

センター月だより

12月分の活動状況報告

東濃西部少年センター

・地区別指導活動

	多治見	瑞浪	土岐	合計
指導件数	6	4	14	24
声かけ件数	228	37	134	399
指導参加者数	61	23	40	124

(指導日誌より)

多治見地区

- ・北栄小学校児童の一斉下校に合わせて啓蒙(あいさつ)活動を行った。その際、400あまりのティッシュを配布。
- ・多治見駅のベルマートの前で、高校生のたむろが目立つとのこと。
- ・高校生の挨拶がとてもよい。公民館、児童館の方たちが児童生徒のことを思い、声かけ指導して下さるので感謝している。
- ・公園の小学生らに暗くならないうちに帰るよう話す。西友にて小学生に先生が注意。
- ・駅前交番より、夕方～8時位までは少年等の集まりがあるとのこと。その中で代替わり(集団が変わる)しているようだ。
- ・学校帰りの高校生たちが、必ず挨拶を交わしてくれることはうれしい。

瑞浪地区

- ・ゴールデンエコー下の地下道にタバコの吸い殻がある。さらに落書きが増えている。
- ・今回、バイパス高架下には、ペットボトル1本のゴミだけで、タバコの吸い殻は見られなかった。

土岐地区

- ・下校時、一緒に歩いた。一列で上手に歩けた。
- ・ちょうど中学校の下校と時間が合った、多くの中学生に声をかけた。まだまだ、日没が早いので、帰宅を促している。

*センターより

先月にも多く見られましたが、児童生徒の良い姿が、各地区から報告をされています。たとえば、多治見地区、土岐地区から出ています「挨拶」。とくに、高校生の気持ちの良い挨拶が多いことです。これも、小学生をはじめとして、直接会い、姿を目にすることから生まれることでもあります。これまでもお願いをしているように巡回の場所、時間帯をもう一度見直し、子どもたちに会うことができるよう工夫をお願いいたします。その一つの工夫として、多治見地区では報告にもありますように、下校時に合わせ、校門付近での挨拶を実施しています。

本気でやれば、たいていのことはできる

「なんでもできる」とまでは言えませんが、たいていのことはできるものです。

私たちは、思うようにできない、思うようにならないことがあると、どうしてもできない理由、そうならない理由を探します。そして諦めることとなります。

そんなときに、一度、自分は本気でやっているのか、本気になっているのかを振り返ってみることで、本気になれば、今まで気が付かなかった道が見つかってきます。本気でやれば、結果が違ってきます。

「生き方サプリメント101錠」 第2集より 多治見市教育長 村瀬 登志夫氏